

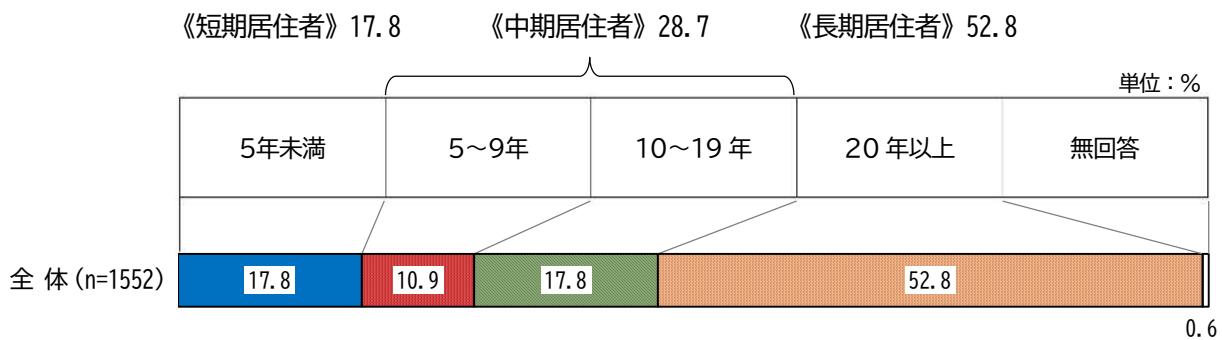
V 結果と分析

1. 居住と生活環境

(1) 居住年数

◇ 「20年以上」の《長期居住者》が5割強

問1 荒川区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つだけ)



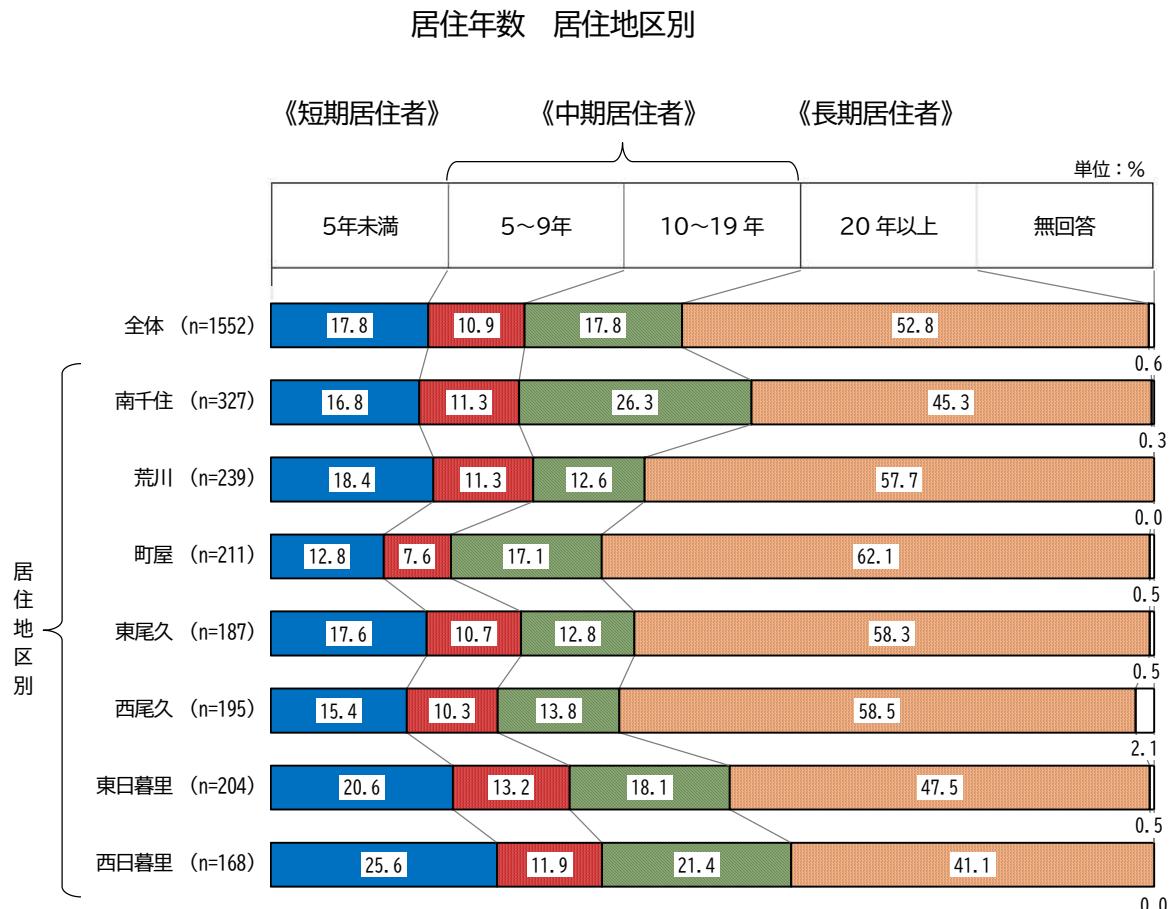
(注) 《短期居住者》 = 「5年未満」

《中期居住者》 = 「5~9年」 + 「10~19年」

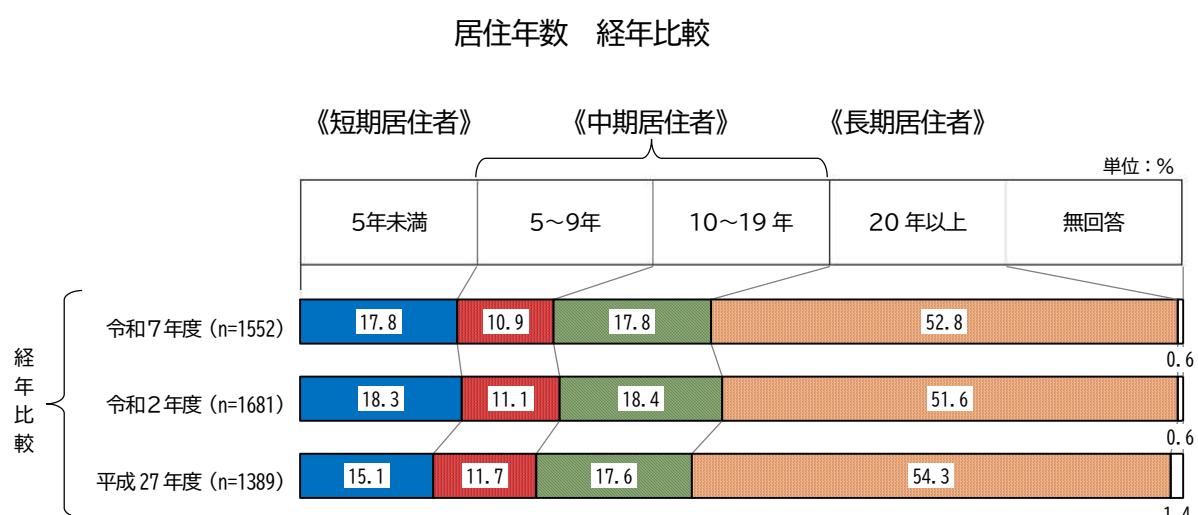
《長期居住者》 = 「20年以上」

居住年数について聞いたところ、「20年以上」(52.8%) の《長期居住者》が5割強で最も高く、次いで「10~19年」(17.8%) と「5~9年」(10.9%) を合わせた《中期居住者》(28.7%) が3割近く、「5年未満」(17.8%) の《短期居住者》が2割近い。

居住地区別でみると、「5年未満」の《短期居住者》では、西日暮里地区（25.6%）が高くなっている。一方、「20年以上」の《長期居住者》では、町屋地区（62.1%）で6割強、西尾久地区（58.5%）と東尾久地区（58.3%）で6割近くと高くなっている。また、「5～9年」と「10～19年」を合わせた《中期居住者》では、南千住地区（37.6%）が4割近くで高くなっている。



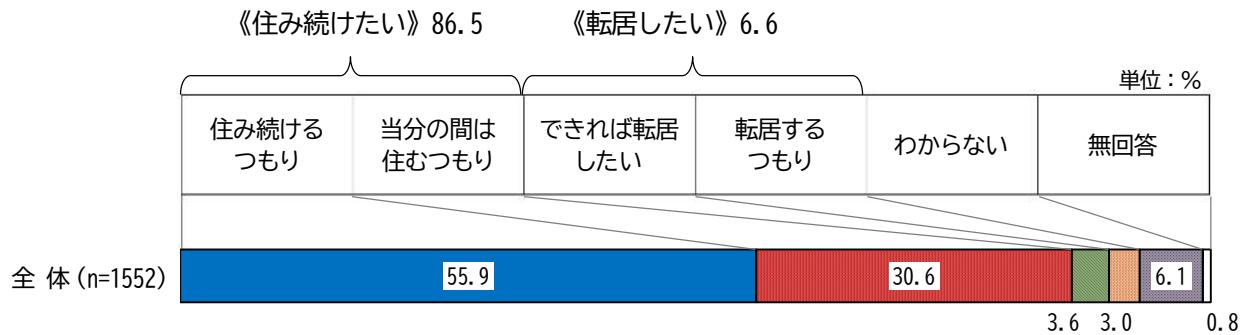
経年比較すると、「5～9年」が、平成27年度で11.7%、令和2年度で11.1%、令和7年度で10.9%と減少している。



(2) 定住意向

◇ 《住み続けたい》の割合は8割半ばを超える

問2 これからも荒川区にお住まいになりますか。(○は1つだけ)



(注) 《住み続けたい》 = 「住み続けるつもり」 + 「当分の間は住むつもり」

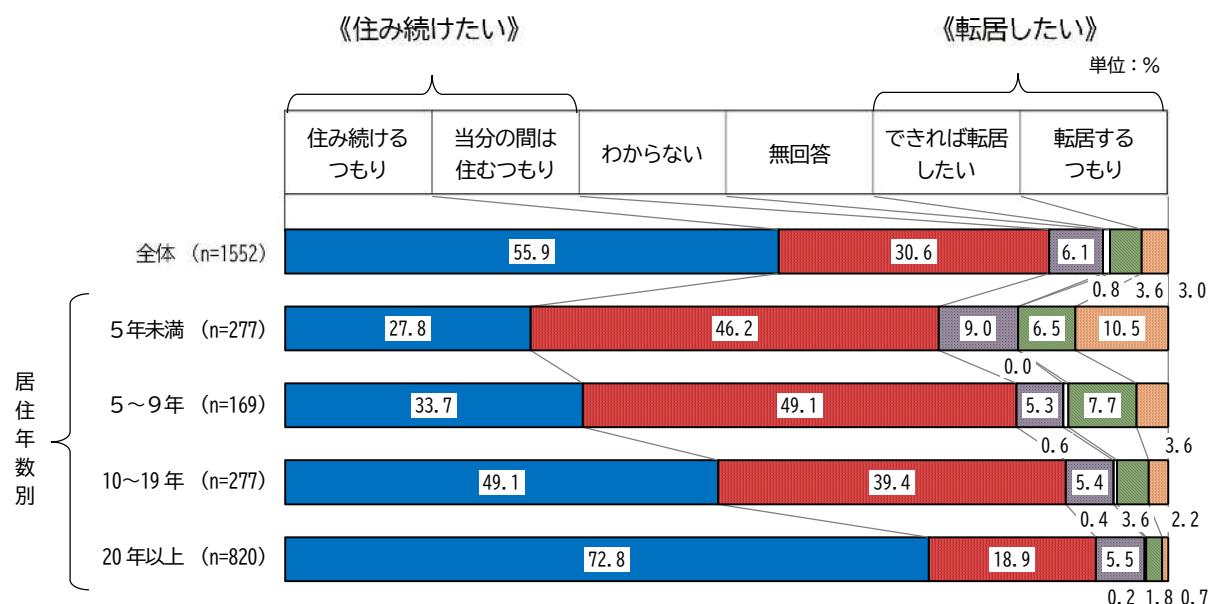
《転居したい》 = 「できれば転居したい」 + 「転居するつもり」

定住意向について聞いたところ、「住み続けるつもり」(55.9%)と「当分の間は住むつもり」(30.6%)を合わせた《住み続けたい》の割合が8割半ば(86.5%)を超えており、一方、「できれば転居したい」(3.6%)と「転居するつもり」(3.0%)を合わせた《転居したい》(6.6%)の割合は1割未満となっている。

居住年数別でみると、「住み続けるつもり」と「当分の間は住むつもり」を合わせた《住み続けたい》は居住年数が長いほど割合が高くなっている、「20年以上」(91.7%)では9割強となっている。

一方、「できれば転居したい」と「転居するつもり」を合わせた《転居したい》は居住年数が短いほど割合が高くなっている、「5年未満」(17.0%)では1割半ばを超え、「5~9年」(11.3%)では1割強となっている。

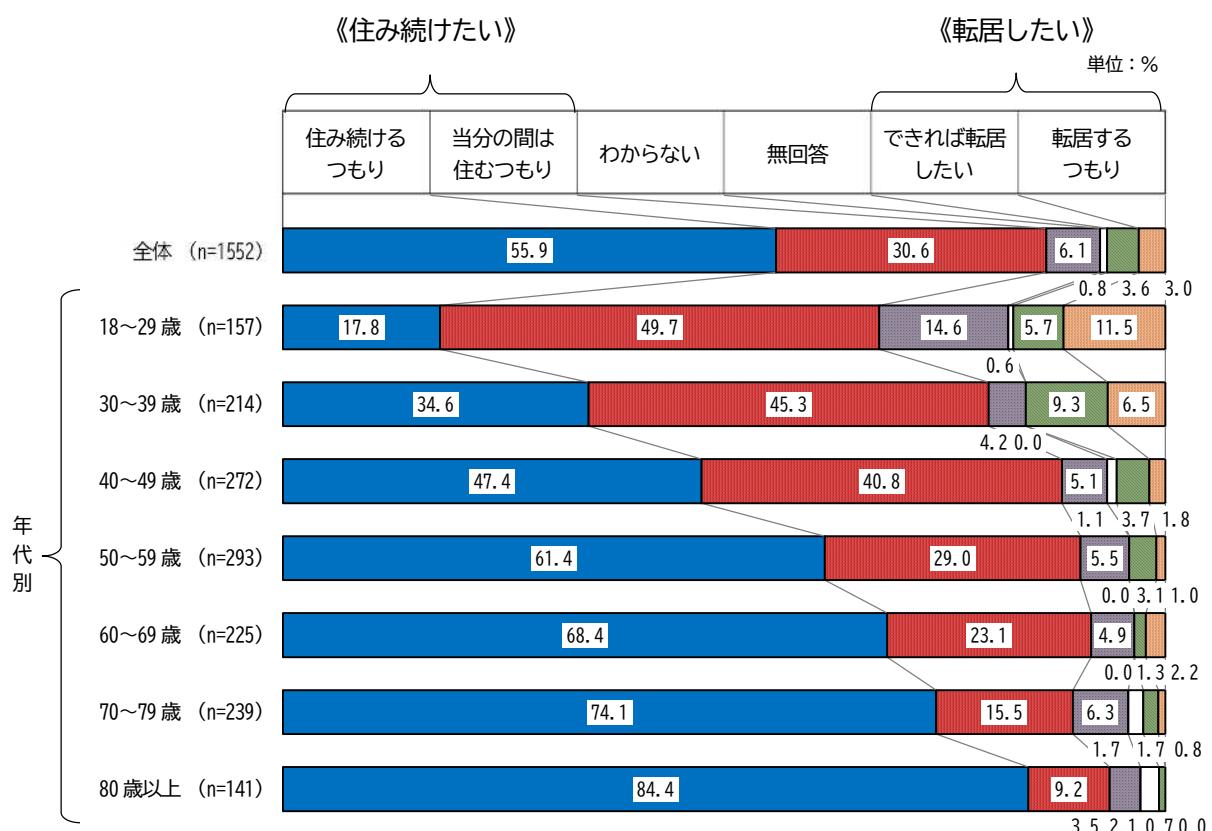
定住意向 居住年数別



年代別でみると、年齢層が高いほど「住み続けるつもり」の割合も高くなっています。80歳以上(84.4%)では8割を超えており、また、「住み続けたい」では、80歳以上(93.6%)が9割半ば近く、60~69歳(91.5%)が9割強、50~59歳(90.4%)が9割となっている。

一方、「転居したい」では、18~29歳(17.2%)が2割に近く、30~39歳(15.8%)が1割半ば、他の年齢層では1割未満となっている。

定住意向 年代別

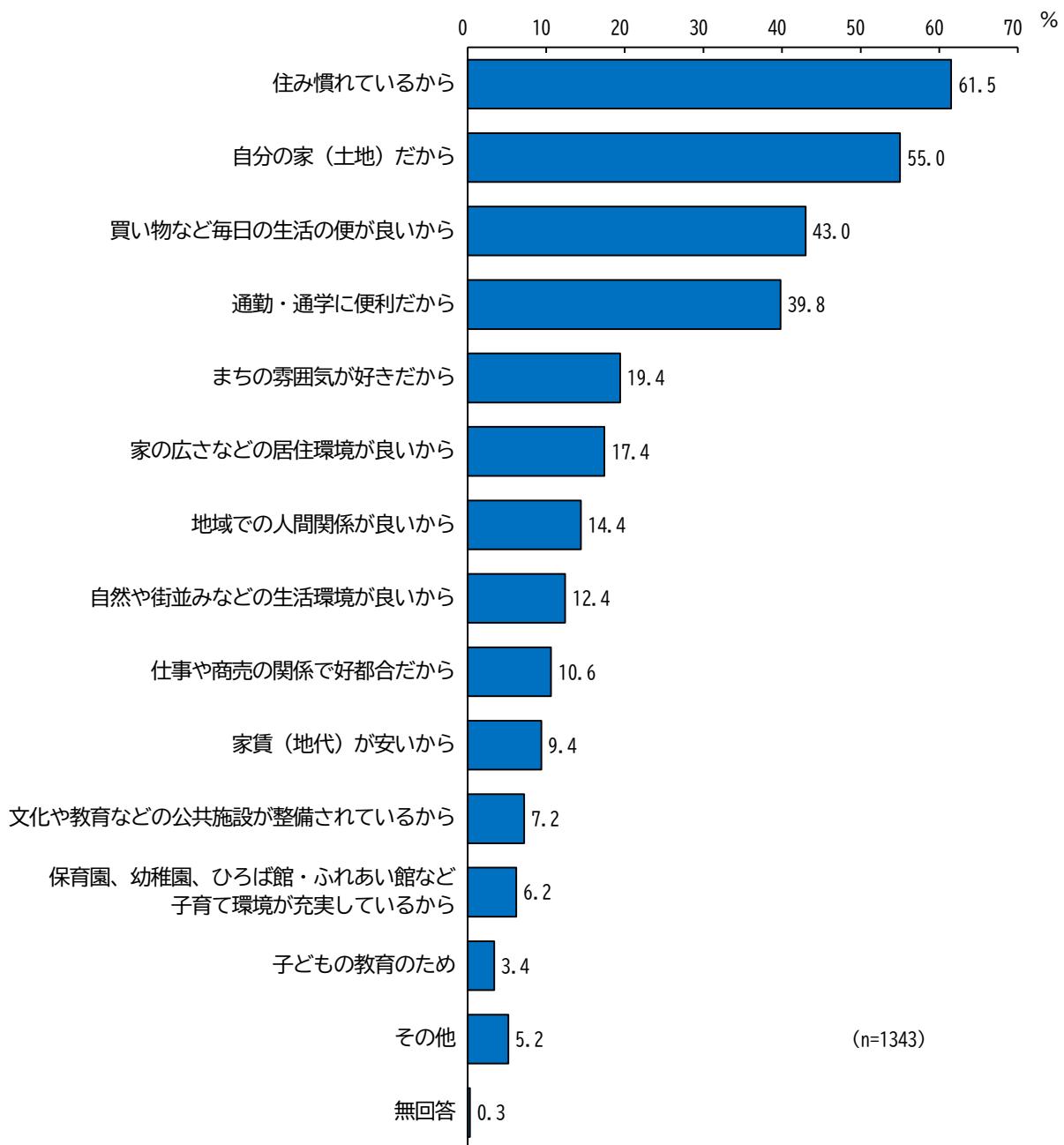


(2-1) 住み続けたい理由

◇「住み慣れているから」が6割強

問2-1 (問2で「1」、「2」とお答えの方に伺います)

その主な理由は何ですか。次の中からお選びください。(○はいくつでも)



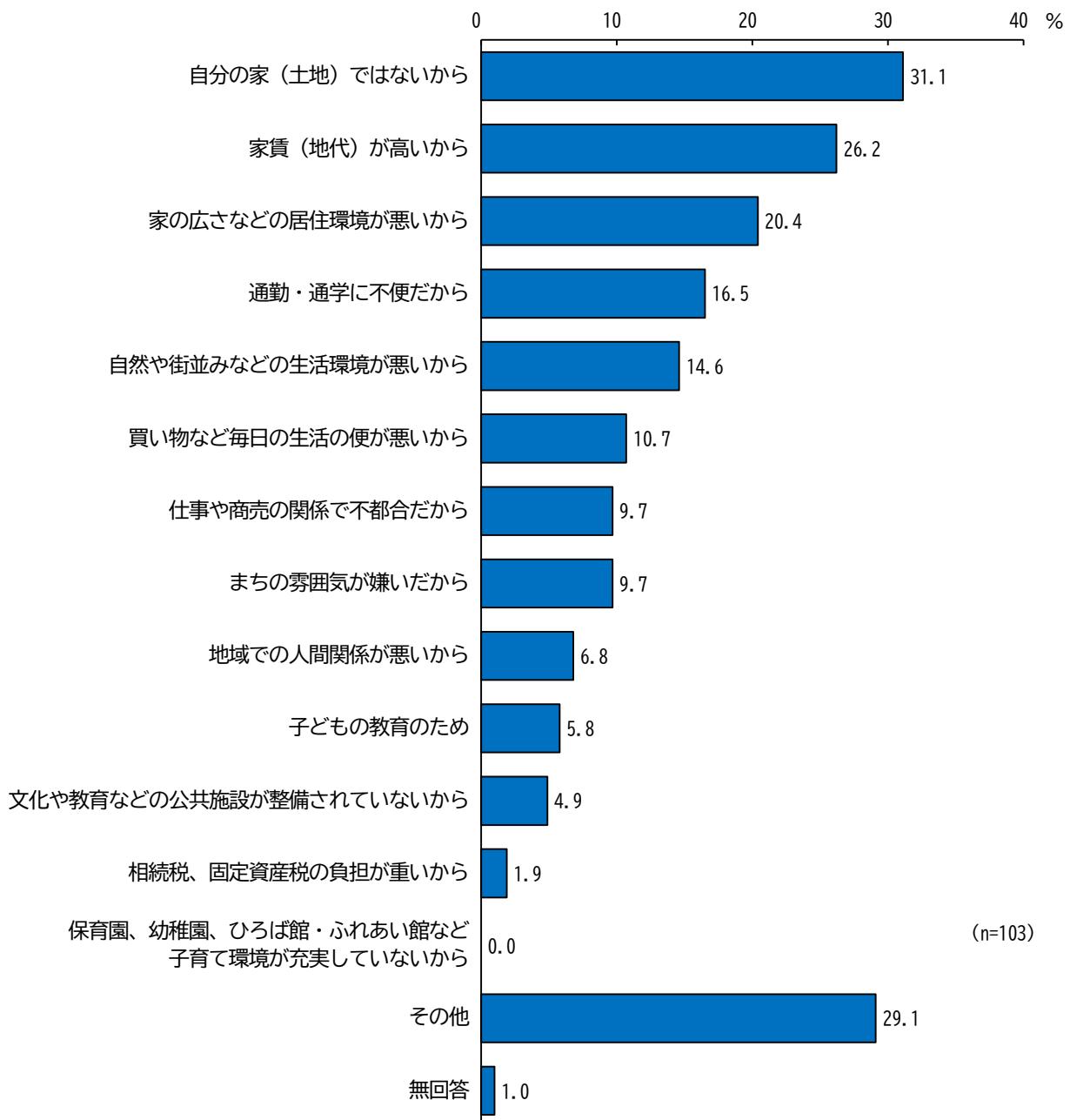
住み続けたい理由について聞いたところ、「住み慣れているから」(61.5%) が6割強と最も高く、次いで「自分の家（土地）だから」(55.0%)、「買い物など毎日の生活の便が良いから」(43.0%)、「通勤・通学に便利だから」(39.8%) が比較的高くなっている。

(2-2) 転居したい理由

◇「自分の家（土地）ではないから」が3割強

問2-2 (問2で「3」、「4」とお答えの方に伺います)

その主な理由は何ですか。次の中からお選びください。(○はいくつでも)

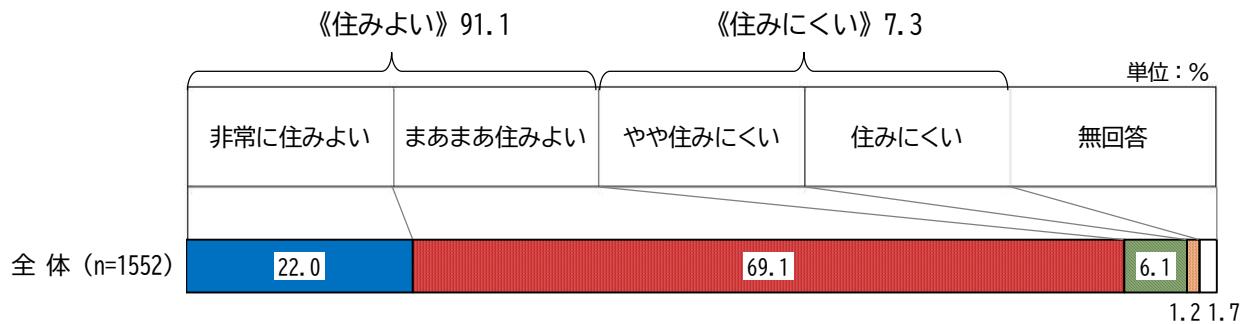


転居したい理由について聞いたところ、「自分の家（土地）ではないから」(31.1%) が3割強で最も高く、次いで「家賃（地代）が高いから」(26.2%)、「家の広さなどの居住環境が悪いから」(20.4%) が比較的高くなっている。

(3) 住みよさ評価

◇ 《住みよい》が9割強

問3 現在の荒川区を住みよいと思いますか。(○は1つだけ)



(注) 《住みよい》 = 「非常に住みよい」 + 「まあまあ住みよい」

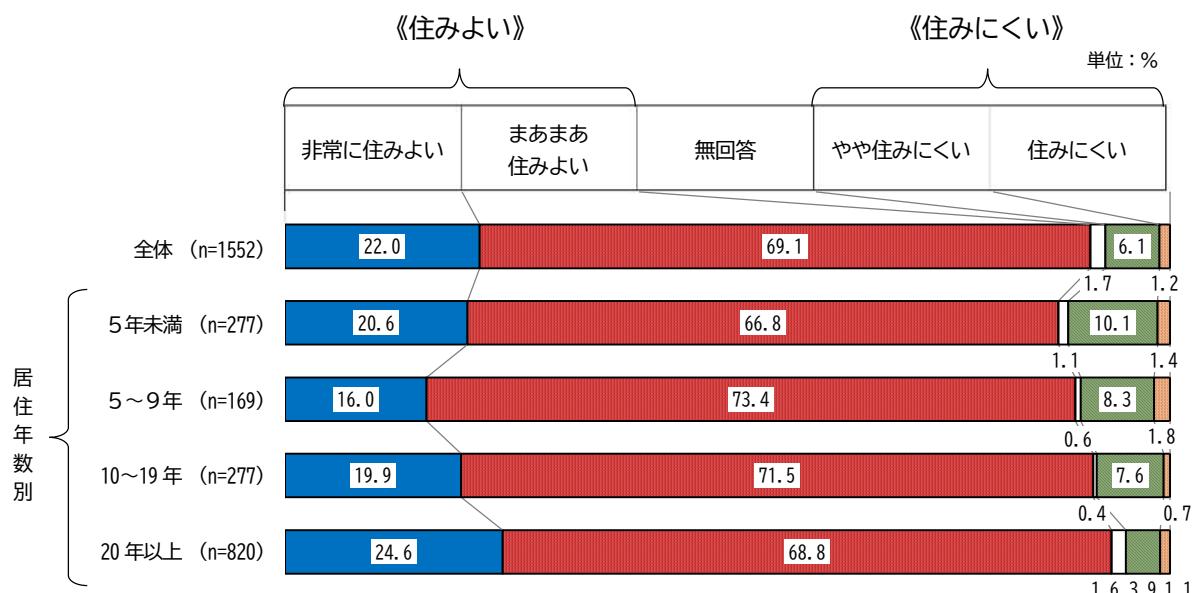
《住みにくい》 = 「住みにくい」 + 「やや住みにくい」

住みよさ評価について聞いたところ、「非常に住みよい」(22.0%) と「まあまあ住みよい」(69.1%) を合わせた《住みよい》(91.1%) の割合は9割強と圧倒的に高い。一方、「やや住みにくい」(6.1%) と「住みにくい」(1.2%) を合わせた《住みにくい》(7.3%) は1割に満たない。

居住年数別でみると、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》は、わずかではあるが居住年数が長いほど割合が高くなっている、「20年以上」(93.4%)で9割を超え、「10~19年」(91.4%)も同様の傾向である。

一方、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》は居住年数が短いほど割合が高くなっている、「5年未満」(11.5%)が1割強、「5~9年」(10.1%)が1割となっている。

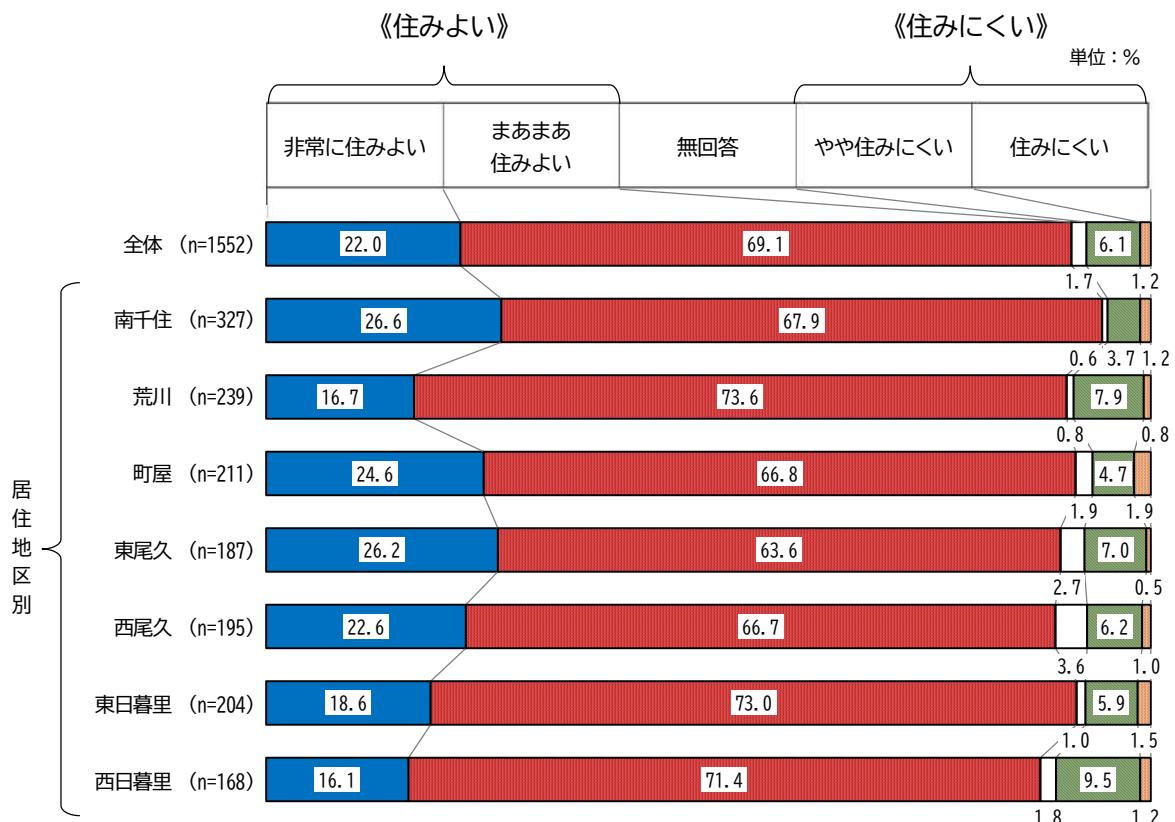
住みよさ評価 居住年数別



居住地区別でみると、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》は、南千住地区（94.5%）が最も高くなっている。

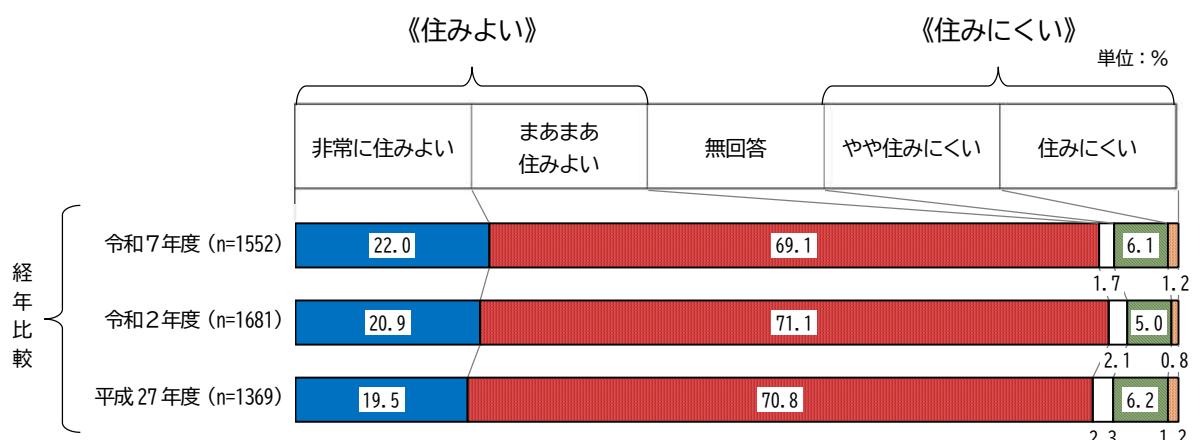
一方、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》は、各地区で5～10%程度となっている。

住みよさ評価 居住地区別



経年比較でみると、「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた《住みよい》は、令和7年度は91.1%で令和2年度の92.0%よりやや減少しているものの、平成27年度の90.3%より増加している。また、「やや住みにくい」と「住みにくい」を合わせた《住みにくい》はどの年度も1割に満たない。

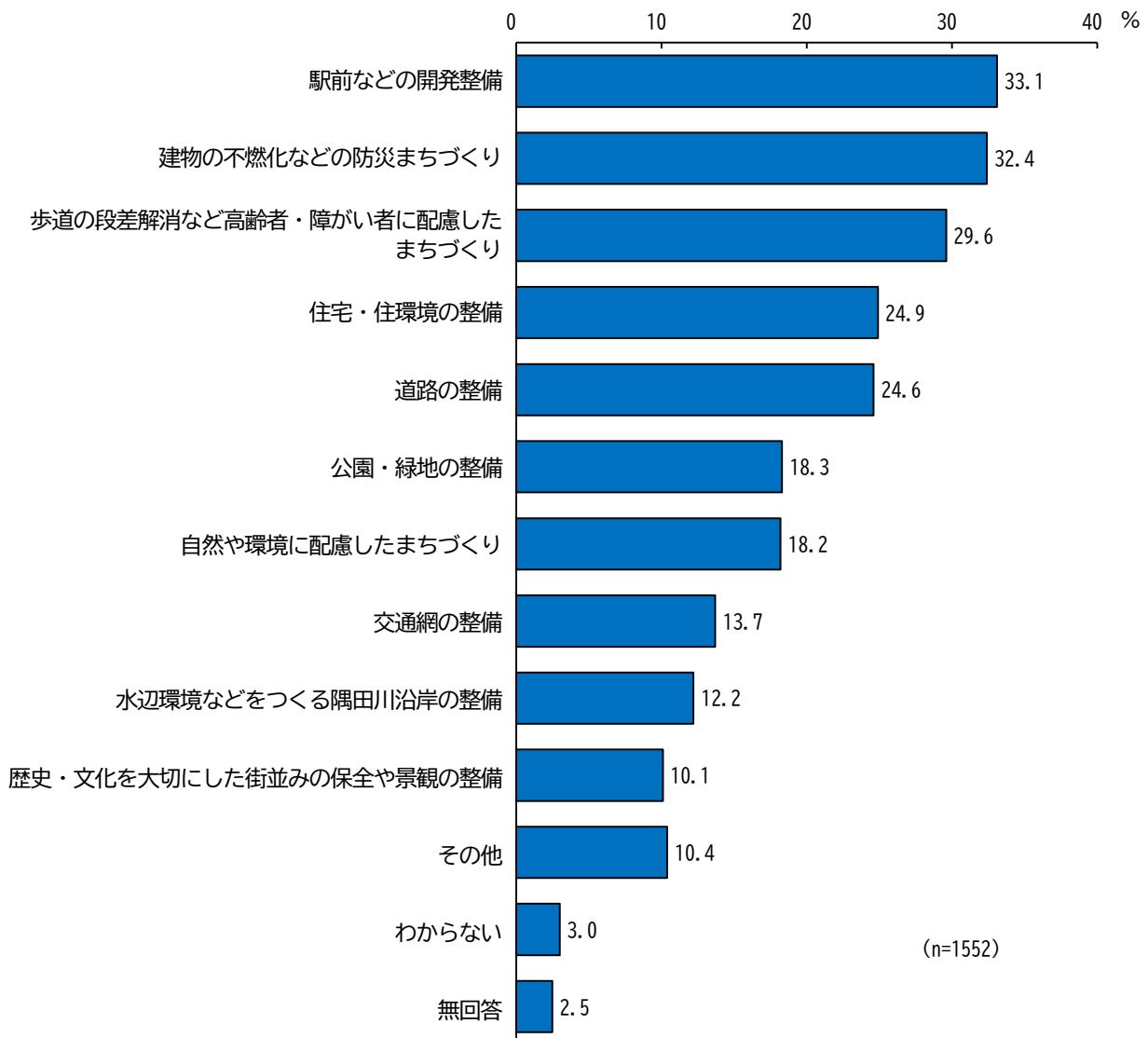
住みよさ評価 経年比較



(4) まちづくりを進めていく上で重要な課題

◇ 「駅前などの開発整備」が3割超

問4 今後、荒川区のまちづくりを進めていく上で重要な課題と思われるものを、次の中からお選びください。(○は3つまで)



まちづくりを進めていく上で重要な課題について聞いたところ、「駅前などの開発整備」(33.1%) が3割超で最も高く、次いで「建物の不燃化などの防災まちづくり」(32.4%) が約3割と高くなっている。

居住地区別でみると、「駅前などの開発整備」は西日暮里地区（43.5%）が4割を超えており、「建物の不燃化などの防災まちづくり」は東日暮里地区と西日暮里地区を除く地区で3割台、「歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり」は荒川地区（34.3%）が3割を超えており。

まちづくりを進めていく上で重要な課題 居住地区別

単位：%

		駅前などの開発整備	建物の不燃化などの防災まちづくり	歩道の段差解消など高齢者・障がい者に配慮したまちづくり	住宅・住環境の整備	道路の整備	公園・緑地の整備	自然や環境に配慮したまちづくり	交通網の整備	水辺環境などをつくる隅田川沿岸の整備	歴史・文化を大切にした街並みの保全や景観の整備
全体 (n=1552)		33.1	32.4	29.6	24.9	24.6	18.3	18.2	13.7	12.2	10.1
居住地区別	南千住 (n=327)	33.6	32.7	31.5	17.7	21.7	19.6	17.4	19.6	13.1	10.4
	荒川 (n=239)	30.5	35.6	34.3	29.7	24.7	17.2	20.1	11.7	10.9	9.2
	町屋 (n=211)	30.3	32.7	30.8	23.7	34.6	17.1	15.6	13.3	13.3	8.1
	東尾久 (n=187)	31.0	34.2	26.7	28.9	28.3	12.3	17.6	18.2	13.9	8.6
	西尾久 (n=195)	26.7	35.4	29.7	20.0	25.1	17.4	21.0	13.8	23.1	7.7
	東日暮里 (n=204)	38.2	29.4	27.9	28.9	22.1	19.6	15.7	8.8	4.9	10.3
	西日暮里 (n=168)	43.5	25.6	20.2	31.5	17.3	22.6	22.6	6.5	6.0	15.5

		その他	わからない	無回答
全体 (n=1552)		10.4	3.0	2.5
居住地区別	南千住 (n=327)	8.6	3.1	3.1
	荒川 (n=239)	11.7	2.5	1.7
	町屋 (n=211)	10.0	3.8	0.9
	東尾久 (n=187)	11.2	3.2	2.7
	西尾久 (n=195)	11.3	1.5	2.1
	東日暮里 (n=204)	12.3	3.9	3.9
	西日暮里 (n=168)	9.5	3.0	2.4

過去の荒川区政世論調査から

今回の調査で、区政世論調査は 50 回目の節目となる。継続調査項目の結果から過去 20 年間（5 年毎）を振り返る。

◇概要

調査年度（調査回）	標本数	有効回収数	調査方法
令和 7 年度（第 50 回）	3,000 サンプル	1,552	郵送配布・郵送またはインターネットによる回収
令和 2 年度（第 45 回）	3,000 サンプル	1,681	郵送配布・郵送またはインターネットによる回収
平成 27 年度（第 40 回）	2,500 サンプル	1,389	郵送配布・郵送またはインターネットによる回収
平成 22 年度（第 35 回）	1,300 サンプル	915	郵送配布・訪問回収
平成 17 年度（第 30 回）	900 サンプル	742	個別訪問面接聴取法

◇回答者の属性

単位：%

年代	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	無回答
令和 7 年度	10.1	13.8	17.5	18.9	14.5	24.5	0.7
令和 2 年度	10.0	13.8	16.5	14.9	14.5	22.0	8.1
平成 27 年度	10.2	16.7	17.9	14.4	16.8	21.3	2.7
平成 22 年度	11.1※	16.8	16.4	13.0	19.9	19.6	3.2
平成 17 年度	9.8※	13.5	15.6	19.9	21.2	19.9	—

※平成 17 年度・平成 22 年度は 20 歳～29 歳

単位：%

居住地区	南千住	荒川	町屋	東尾久	西尾久	東日暮里	西日暮里	無回答
令和 7 年度	21.1	15.4	13.6	12.0	12.6	13.1	10.8	1.4
令和 2 年度	21.0	15.1	12.3	12.4	12.1	14.8	9.3	2.9
平成 27 年度	21.4	16.4	13.7	12.1	11.4	12.5	9.4	3.2
平成 22 年度	19.2	16.5	14.0	13.4	11.8	11.8	9.3	3.9
平成 17 年度	18.7	17.7	15.4	11.5	14.3	12.3	10.2	—

◇ (参考) 区の人口推移

表は各年4月1日現在の住民基本台帳登録者。なお、調査対象者は調査実施月1日現在の住民基本台帳登録者。

総人口	4月1日現在
令和7年	222,450人※
令和2年	217,167人※
平成27年	209,449人※
平成22年	188,129人
平成17年	177,216人

※平成27年・令和2年、令和7年は外国籍を含む（平成24年7月に改正住民基本台帳法が施行され、外国人も住民基本台帳上に記載されることとなつた。それに伴い、平成24年度の区政世論調査から外国人も対象としている）。

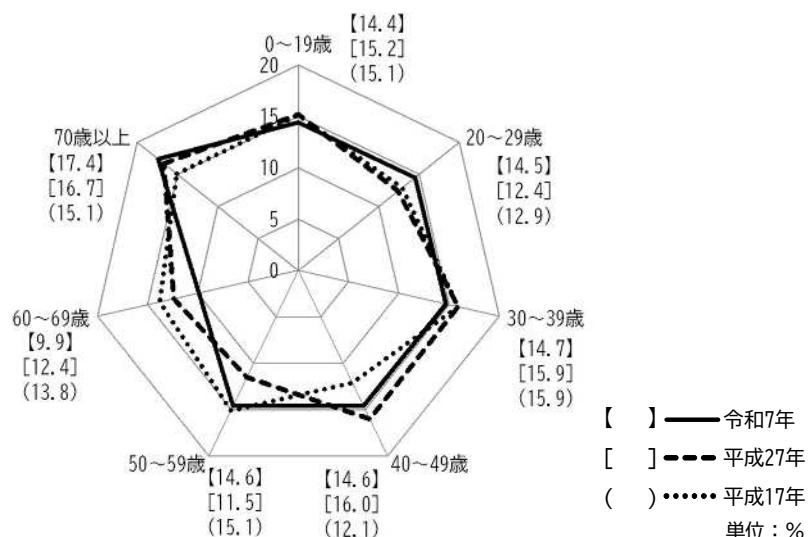
単位：%

年代	0～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
令和7年	14.4	14.5	14.7	14.6	14.6	9.9	17.4
令和2年	15.2	13.1	14.8	16.2	12.8	10.1	17.8
平成27年	15.2	12.4	15.9	16.0	11.5	12.4	16.7
平成22年	14.9	12.1	16.9	13.8	12.0	14.1	16.3
平成17年	15.1	12.9	15.9	12.1	15.1	13.8	15.1

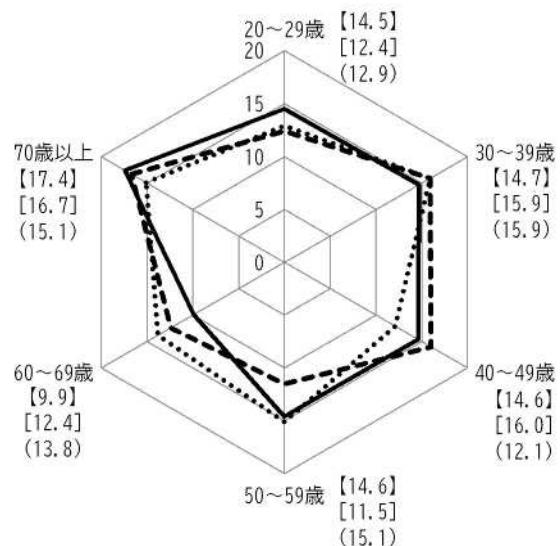
単位：%

居住地区	南千住	荒川	町屋	東尾久	西尾久	東日暮里	西日暮里
令和7年	21.3	15.2	13.4	12.8	11.9	14.3	11.1
令和2年	21.5	15.0	13.6	12.9	12.1	13.8	11.0
平成27年	21.7	15.3	13.8	12.8	12.2	13.3	11.0
平成22年	21.6	15.8	14.5	13.5	13.2	11.7	9.7
平成17年	18.6	16.2	15.1	14.0	14.4	12.2	9.5

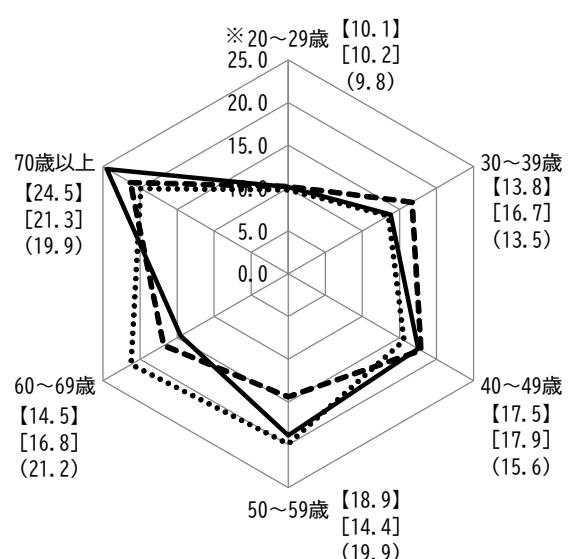
住民基本台帳登録者割合 年代別・経年比較



住民基本台帳登録者割合 年代別・経年比較 (20歳以上)

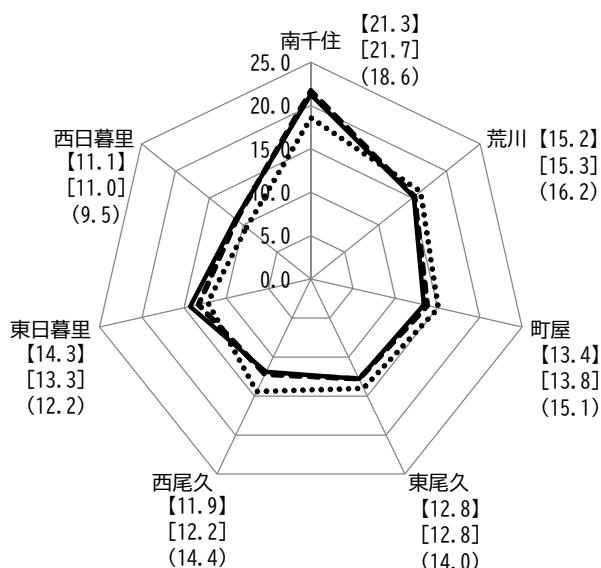


回答者割合 年代別・経年比較

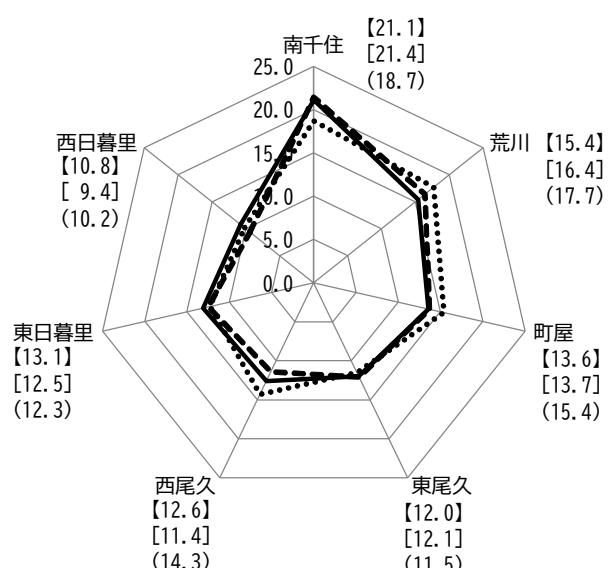


※平成27年度、令和7年度は18歳～29歳

住民基本台帳登録者割合 居住地区別・経年比較



回答者割合 居住地区別別・経年比較



【 】——令和7年

【 - 】--- 平成26年

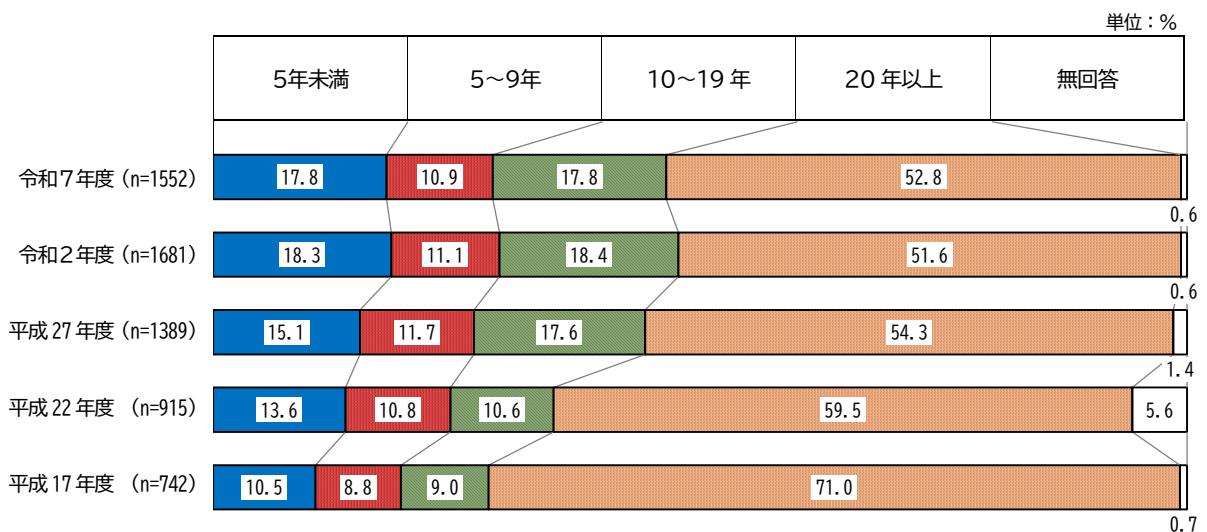
()…… 平成17年

単位：%

◇継続調査項目の結果から

問：荒川区にお住まいになって何年になりますか。

「5年未満」「10～19年」の割合が増加傾向にあり、「20年以上」の割合が減少傾向にある。



問：現在の荒川区を住みよいと思しますか。

どの年度も、《住みよい》と回答している方が多数派であり、「住みにくい」と回答している方は平成17年度を除き、1割に満たない。

